

大学の世界展開力強化事業 構想概要 立命館アジア太平洋大学

【構想の名称】(タイプB-I)

APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで

【構想の概要】

米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

■ プログラムの目的・養成する人材像

幅広い知識とその応用力をもったグローバル人材の育成

世界の多様な政治、経済、社会、文化等に関する総合的な理解にたち、国際社会、環境と開発、ビジネス等に関する基礎的及び専門的知識を修得し、言語力、コミュニケーション能力、問題解決能力等を涵養し、世界が直面する多様な諸問題・諸課題を解決に導くことのできる人材育成を目指す。

〈 SEUキャンパスの風景 〉



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

(1)入学前留学プログラム	立命館アジア太平洋大学(以下、APU)入学予定者に対し、入学直前の3月にSEUへ短期留学するプログラムを提供する。言語レベルの把握と強化、異文化体験、大学4年間の目標設計を通じて、入学後の国際教育プログラム参加へのイメージを掴ませる。
(2)積み上げ式協働教養プログラム	APU・SEU両大学の強みを活かし、自大学、相手大学、または第3の場所(タイ・マレーシア)において、多様で幅広い教養教育を学ぶプログラムを提供する。
(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム	APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得を可能とするプログラムを提供する。
(4)キャップ・ストーン科目	上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。

上記の取組みを通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

〈 APU卒業式の風景 〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

教育内容の可視化

- ・ポートフォリオにより、学生の学び、各プログラムの成果検証。
- ・日米の学外有識者等を含めたレビューによる客観評価。

成果の普及

- ・大学ホームページやリーフレット等の媒体による情報発信。
- ・国内の研修会や海外で開催される国際会議(NAFSA等)において、国内外の大学に向けて成果発表、国際教育のモデル提示。
- ・韓国の大学等、国内外の他大学との応用・展開。

■ 学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

APU学生の派遣

参加プログラムに応じた事前授業やガイダンス、アドバイジングを実施し、学修・生活の両面で、円滑なプログラム参加へ繋げる支援体制を置く。各プログラムにおける単位認定の詳細については、留学前にラーニング・アグリメントの徹底を図る。

留学生の受入れ

既にAPUが導入している春・秋入学、クォーター制(4学期制)、日英2言語対応、国際標準の成績評価(GPA制度)、国際教育寮(学生アシスタントが支援を行う大学寮)等に加え、本プログラムに対応したアドバイジング体制を置く。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

APU学生の派遣

初年度より入学前留学プログラムを実施し、年間20名派遣する。積み上げ式協働教養プログラムにおいて、各プログラム15名程度、協働ダブル・ディグリー・プログラムにおいて年間5名(3年目より)の派遣を目指す。

留学生の受入れ

積み上げ式協働教養プログラムにおいて、各プログラム10~20名程度(※右表以外に、タイ・マレーシアへSEU学生を15名程度派遣)、協働ダブル・ディグリー・プログラムにおいて年間5名(3年目より)の受入れを目指す。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	20	50	70	70	70
学生の受入	20	30	35	35	35

〈 のべ人数 〉

大学の世界展開力強化事業 取組実績 立命館アジア太平洋大学

【構想の名称】(タイプB-I) 米国における大学等との協働教育を行う交流事業

APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで

【プログラムの目的・養成する人材像】

世界の多様な政治、経済、社会、文化等に関する総合的な理解にたち、国際社会、環境と開発、ビジネス等に関する基礎的及び専門的知識を修得し、言語力、コミュニケーション能力、問題解決能力等を涵養し、世界が直面する多様な諸問題・諸課題を解決に導くことのできるグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

(1)入学前留学プログラム	立命館アジア太平洋大学(以下、APU)入学予定者に対し、入学直前の3月にSEUへ短期留学するプログラムを提供する。言語レベルの把握と強化、異文化体験、大学4年間の目標設計を通じて、入学後の国際教育プログラム参加へのイメージを掴ませる。
(2)積み上げ式協働教養プログラム	APU・SEU両大学の強みを活かし、自大学、相手大学、または第3の場所(タイ・マレーシア)において、多様で幅広い教養教育を高めるプログラムを提供する。
(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム	APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得を可能とするプログラムを提供する。
(4)キャップ・ストーン科目	上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。

上記の取組みを通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

■ 平成23年度に実施した交流プログラムの概要

積み上げ式協働教育プログラムBusiness in Japan (BIJ) の実施

16名のSEU学生をAPUにおいて約1週間受け入れ、日本を中心としたアジア地域における国際ビジネスについての講義の受講、企業訪問、日本文化体験などを行った。APUの学生をサポート役(バディ)として付け、学生同士の交流を深めることができた。

入学前留学プログラムの実施

APUへの入学予定者8名がSEUへ約2週間滞在、英語学習、大学入学準備講座の受講、SEUの日本語クラス訪問や日本企業視察を通し、英語能力の強化・異文化体験を行った。国際的な視野を得た上での大学入学後の目標設計ができたほか、BIJに参加したSEU学生との交流も学生主体で始まり、相互交流事業の効果が見られた。



〈SEUキャンパスの風景〉

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

APU学生の派遣

本年度は入学前教育プログラムにて20名を派遣、積み上げ式協働教養プログラムにおけるSEU・東南アジアでのプログラムに15名程度を派遣予定。平成25年度より協働ダブル・ディグリー・プログラムにおいて5名の派遣を目指す。

留学生の受入

本年度は積み上げ式協働教養プログラムにおいて、2プログラム各10~20名程度を受け入れ、平成25年度より協働ダブル・ディグリー・プログラムにおいて年間5名の受け入れを目指す。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	33	70	70	70
学生の受入	16	35	40	40	40

(延べ人数。H23は実績、H24以降は予定数)

■ 学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

留学アドバイジング体制の強化

既にAPUで実施している日英2言語対応、国際標準の成績評価(GPA制度)、国際教育寮等に加え、本プログラムに対応したアドバイジング体制を設置している。参加プログラムに応じた事前・事後授業やガイダンス、アドバイジングを実施し、学修・生活の両面で、円滑なプログラムの参加を促進している。



Business In Japanでの交流会の様子

■ 教育内容の可視化・成果の普及

教育内容の可視化・プログラム内容の改善

eポートフォリオを開発、学生の学びを蓄積し、学生の成長や各プログラムの成果の検証を行っている。また、国内外の有識者に外部評価委員を委嘱、委員からのレビューにより、客観的評価をもってプログラムの改善に繋げている。

成果の普及

本プログラムのホームページやリーフレットを作成、プログラムの情報発信を行っている。今後は国内外の研修会や国際会議等において、他大学に向けて成果発表するほか、韓国の大学等、国内外の他大学との展開なども行っていく予定。

【構想の名称】(タイプB-I) 米国における大学等との協働教育を行う交流事業

【プログラムの目的・養成する人材像】

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)と米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

APU・SEU生は各大学で受ける初年次教育をベースに、「積み上げ式協働教養プログラム」もしくは「協働ダブル・ディグリー・プログラム」に参加、それぞれの大学において留学を行う。APU学生は入学前留学プログラムも実施する。全てのプログラムにおいてラーニングゴールにもとづくアウトカム・アセスメントを実施し、学生の学びと成長に寄与する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組・プログラム実施状況・学生モビリティ

(1)入学前留学プログラム(3月実施)

APU入学予定者に対し、入学直前にSEUへ3週間の短期留学をするプログラム。SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業の受講、SEUの学生バディとの交流、フィールドワーク等を通じ、国際的視点を意識した上で、入学後の学習計画を立てていくことを目的としている。平成23年には8名、平成24年には23名が参加。

(2)積み上げ式協働教養プログラム

Business In Japan プログラム - BIJ (3月実施) 国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶプログラム約1週間のプログラム。APU教員による講義、日本企業・在日米国企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深めた。平成23年には16名、平成24年には20名が参加。

ゲートウェイ・プログラム (6・7月実施) SEU学生がAPUに2ヶ月滞在し、日本語と日本文化について学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスやAPU学生との共同開講科目を受講するほか、フィールドトリップや農泊、APU学生バディとの交流を通じ、様々な側面から日本文化を体験し、生きた日本語を学ぶ。平成24年には10名が参加、平成25年は6名が参加予定。

グローバル・コミュニケーション・プログラム - GCP (6・7月実施) APU学生がSEUに2ヶ月滞在、SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修、英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、グローバル人材としてのコミュニケーション能力を身につけることを目的としたプログラム。平成24年は13名が参加、平成25年は28名が参加予定。

Southeast Asian Studies Program - SEAS (8月実施) GCPでSEUに留学したAPU学生、BIJ やゲートウェイ・プログラムにてAPUに留学したSEU学生、韓国カトリック大学の学生が、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに、全員の学生にとって異文化の地となるタイ・マレーシアにて2週間、協同学習を行うことにより、異文化理解力・コミュニケーション能力を更に深めることを目的としたプログラム。平成24年は25名が参加、平成25年は20名が参加予定。

(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム

APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。平成25年8月より2名のAPU学生がSEUへ2年間留学予定、SEU学生のAPU留学は平成26年度より開始予定。

(4)キャップ・ストーン科目

上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。平成24・25年はSoutheast Asian Studies Programに統合する形で実施。

上記の取組を通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

交流実績数	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	49	70	70	70
学生の受入	16	40	30	35	35

(延べ人数。H23・H24は実績、H25以降は予定数)

■ 留学を促進するための環境整備

事前・事後授業・留学アドバイジング・e-portfolio

参加プログラムに応じた事前・事後授業、個別アドバイジング、e-portfolioの利用を通じ、学生の留学における目標の明確化、留学中の日々の達成度の検証、留学成果を将来の目標へ活かすための方向付けを丁寧に行っている。e-portfolioの利用は、学生同士が励ましあうLearning Community醸成の場にもなり、3ヶ月・13名で200を超える励まし合いのコメントがあったプログラムもあった。また、プログラムの枠を超えて先輩学生が後輩学生と交流できる場を設け、留学経験を共有し、将来への学びへ結びつけるためのモチベーション維持・向上を図る試みも行っている。

■ プログラムの効果

英語力の伸長・・・APUの学生は大きな英語能力の伸長を感じており、GCPに参加した学生のTOEFL-ITPでは平均25.3点の伸長、TOEIC-IPでは平均94.0点の伸長が見られた。

異文化理解力・グローバルな視点の養成・・・APU・SEUの学生共に、留学を通して異文化理解力が高まったと全員が回答しており、帰国後に学生バディとして活躍する学生も増えている。GCPに参加した学生は進学・就職希望を除く全員が交換留学や他の留学プログラムに参加、就職希望者は世界に展開する企業に内定を得た。

APU-SEUのパートナーシップの強化・・・プログラムの内容の充実化を目指し、学長から教員、職員レベルまで積極的に両校で意見交換をし、プログラム開発を行っており、パートナーシップは確実に強まっている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

本プログラムのホームページやリーフレットを作成広く公開しているほか、国外の研修会や国際会議等において発表を行った。本年6月に外部評価委員を招いて中間報告会を開催するほか(一般公開)、来年以降は海外での発表も行っていく予定。



Southeast Asian Studies Program
タイ・マレーシアで協同学習

プログラムホームページ: www.glue-apu.net

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

APU・SEUグローバル協働教育プログラム-入学前教育から大学教養・専門教育まで

【プログラムの目的・養成する人材像】

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)と米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

APU・SEU生は各大学で受ける初年次教育をベースに、「積み上げ式協働教養プログラム」もしくは「協働ダブル・ディグリー・プログラム」に参加、それぞれの大学において留学を行う。APU学生は入学前留学プログラムも実施する。全てのプログラムにおいてラーニングゴールにもとづくアウトカム・アセスメントを実施し、学生の学びと成長に寄与する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組・プログラム実施状況・学生モビリティ

(1)入学前留学プログラム(3月実施)

APU入学予定者に対し、入学直前にSEUへ2週間の短期留学をするプログラム。SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業の受講、SEUの学生バディとの交流、フィールドワーク等を通じ、国際的視点を意識した上で、入学後の学習計画を立てていくことを目的としている。平成23年には8名、平成24年には23名、平成25年には22名が参加。

(2)積み上げ式協働教養プログラム

Business In Japan プログラム - BIJ (3月実施) 国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶプログラム約1週間のプログラム。APU教員による講義、日本企業・在日米国企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深めた。平成23年には16名、平成24年には20名、平成25年には16名が参加。

ゲートウェイ・プログラム (6・7月実施) SEU学生がAPUに2ヶ月滞在し、日本語と日本文化について学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスやAPU学生との共同開講科目を受講するほか、フィールドトリップや農泊、APU学生バディとの交流を通じ、様々な側面から日本文化を体験し、生きた日本語を学ぶ。平成24年には10名、平成25年は6名、平成26年には8名が参加。平成25年度より、ゲートウェイ期間中に、APU・SEU両教員による協働開講科目を実施し、日米の学生が共に学んでいる。

グローバル・コミュニケーション・プログラム - GCP (6・7月実施) APU学生がSEUに2ヶ月滞在、SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修、英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、グローバル人材としてのコミュニケーション能力を身につけることを目的としたプログラム。平成24年は13名、平成25年は28名、平成26年には30名が参加。

Southeast Asian Studies Program - SEAS (8月実施) GCPでSEUに留学したAPU学生、BIJ やゲートウェイ・プログラムにてAPUに留学したSEU学生、韓国カトリック大学の学生が、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに、全員の学生にとって異文化の地となるタイ・マレーシアにて2週間、協働学習を行うことにより、異文化理解力・コミュニケーション能力を更に深めることを目的としたプログラム。平成24年は25名、平成25年は20名、平成26年には23名が参加予定。

(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム

APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。平成25年8月より2名のAPU学生がSEUへ2年間留学、平成26年8月より1名が留学予定。SEU学生のAPU留学は平成27年度より開始予定。

(4)キャップ・ストーン科目

上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。平成24・25年はSoutheast Asian Studies Programに統合する形で実施し、平成26年度も継続して実施予定。

上記の取組を通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

交流実績数	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	49	65	70	70
学生の受入	16	40	22	35	35

(延べ人数。H23-H25は実績、H26以降は予定数)

■ 留学を促進するための環境整備

事前・事後授業・留学アドバイジング・e-portfolio

参加プログラムに応じた事前・事後授業、個別アドバイジング、e-portfolioの利用を通じ、学生の留学における目標の明確化、留学中の日々の達成度の検証、留学成果を将来の目標へ活かすための方向付けを丁寧に行っている。e-portfolioの利用は、学生同士が励ましあうLearning Community醸成の場にもなり、3ヶ月・13名で200を超える励まし合いのコメントがあったプログラムもあった。また、プログラムの枠を超えて先輩学生が後輩学生と交流できる場を設け、留学経験を共有し、将来への学びへ結びつけるためのモチベーション維持・向上を図る試みも行っている。平成25年度より、前年度GCP参加学生がピア・アドバイザーとしてe-portfolio上でのフィードバックを行い、平成26年度も同様の取組みおよび英語力向上のワークショップを企画運営している。

■ プログラムの効果

英語力の伸長・・・APUの学生は大きな英語能力の伸長を感じており、GCPに参加した学生のTOEFL-ITPでは平均23.3点の伸長、TOEIC-IPでは平均95.6点の伸長が見られた。

異文化理解力・グローバルな視点の養成・・・APU・SEUの学生共に、留学を通して異文化理解力が高まったと全員が回答しており、帰国後に学生バディとして活躍する学生も増えている。GCPに参加した学生は進学・就職希望を除く全員が交換留学や他の留学プログラムに参加、就職希望者は世界に展開する企業に内定を得た。

APU・SEUのパートナーシップの強化・・・プログラムの内容の充実化を目指し、学長から教員、職員レベルまで積極的に両校で意見交換をし、プログラム開発を行っており、パートナーシップは確実に強まっている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

本プログラムのホームページやリーフレットを作成広く公開しているほか、国外の研修会や国際会議等において発表を行った。平成25年6月に外部評価委員を招いて中間報告会を開催し(一般公開)、平成26年以降は海外での発表も行っていく予定。



SEASプログラム
タイ・マレーシアで協働学習

【構想の名称】(タイプB-I) APU-SEUグローバル協働教育プログラム-入学前教育から大学教養・専門教育まで

【プログラムの目的・養成する人材像】

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)と米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

APU・SEU生は各大学で受ける初年次教育をベースに、「積み上げ式協働教養プログラム」もしくは「協働ダブル・ディグリー・プログラム」に参加、それぞれの大学において留学を行う。APU学生は入学前留学プログラムも実施する。全てのプログラムにおいてラーニングゴールにもとづくアウトカム・アセスメントを実施し、学生の学びと成長に寄与する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組・プログラム実施状況・学生モビリティ

(1)入学前留学プログラム(3月実施)

APU入学予定者に対し、入学直前にSEUへ2週間の短期留学をするプログラム。SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業の受講、SEUの学生バディとの交流、フィールドトリップ等を通じ、国際的視点を意識した上で、入学後の学習計画を立てていくことを目的としている。H23～H26年度までの参加者は計75名(うち、H26年度は22名)。

(2)積み上げ式協働教養プログラム

Business In Japan プログラム - BIJ (3月実施)	国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶ約1週間のプログラム。APU教員による講義、日本企業・在日米企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深める。H23～H26年度までの参加者は計71名(うち、H26年度は19名)。
---	--

ゲートウェイ・プログラム (6・7月実施)	SEU学生がAPUにて2ヶ月間、日本語と日本文化を学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスと、APU・SEU両教員とAPU・SEU両学生がともに学ぶ協働開講科目、さらにフィールドトリップや農泊、学生バディとの交流を通じ、日本文化理解とコミュニケーション能力を培う。H24～H27年度までの参加者は計39名(うち、H27年度は15名)。
------------------------------	---

グローバル・コミュニケーション・プログラム - GCP (6・7月実施)	APU学生がSEUに2ヶ月滞在。SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修しながら英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、グローバル人材としてのコミュニケーション能力を身につけることを目的としたプログラム。H24～H27年度までの参加者は計99名(うち、H27年度は28名)。
---	---

Southeast Asian Studies Program - SEAS (8月実施)	GCPでSEUに留学したAPU学生、ゲートウェイ・プログラムにてAPUに留学したSEU学生が、タイ・マレーシアにて2週間、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに協働学習を行うことにより、異文化理解力・コミュニケーション能力を更に深めることを目的としたプログラム。H24～H27年度までの参加者は計98名(うち、H27年度は30名)。
--	---

(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム

APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。H25年度よりAPUからSEUへの派遣を開始し、現在までに3名が参加。H27年8月から1名を派遣予定。H27年9月よりSEU学生1名をAPUに受入予定。

(4)キャップ・ストーン科目

上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。H24・25年はSoutheast Asian Studies Programに統合する形で実施し、H26年度も継続して実施予定。

上記の取組を通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

交流実績数	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	49	65	68	70
学生の受入	16	40	28	35	35

(延べ人数。H23-H26年度は実績、H27年度は予定数)

■ 留学を促進するための環境整備

事前・事後授業・留学アドバイザー・eポートフォリオ

参加プログラムに応じた事前・事後授業、個別アドバイザー、eポートフォリオの利用を通じ、学生の留学における目標の明確化、留学中の日々の達成度の検証、留学成果を将来の目標へ活かすための方向付けを丁寧に行っている。プログラムの枠を超えて先輩学生が後輩学生と交流できる場を設け、留学経験を共有し、将来への学びへ結びつけるためのモチベーション維持・向上を図る試みも行っている。H25年度より過年度プログラム参加学生がピア・アドバイザーとしてeポートフォリオ上でのフィードバックを行い、H26年度も同様の取組みおよび英語力向上のワークショップを企画、実施した。

■ 留学成果の研究とプログラムの波及効果

留学成果の研究: 本事業ではeポートフォリオの運用とデータ分析、さらにH24年度からルーブリックに基づく留学効果測定をSEUとともに実施し、結果は広く国内外に発信された。H26年度には「GLUEアウトカム」の指標を設定し、長期インパクト研究を開始。グローバル協働教育における成果の可視化と発展を目指す。

プログラムの波及効果: 両大学の協働はプログラムを越え、学長から教職員まで積極的に両校で教育的意見交換をし、SEU教員による本学教職員へのSD/FDも実施している。今後は新規プログラム開発と、APU-SEU間での教職員交換プログラムなども検討。またeポートフォリオ、バディ研修、入学前留学などは先駆事例として、学内外の海外プログラムにも波及している。本事業はオースティン市と大分市の姉妹都市交流に寄与するため、両市との連携も図っている。

■ 成果の公開・普及

本プログラムのホームページやリーフレットを作成し広く公開しているほか、国内外の研修会や国際会議等において発表。

【学会・研究会発表】

- ・AAC&U, Global Learning学会
- ・NAFSA
- ・CIEE短期海外研修セミナー
- ・学生の海外体験学習と質保証研究大会
- ・朝日ネットmanabaセミナー ～他多数

【論文】

- ・「短期留学プログラムにおける意義のある学習」の実践(異文化間教育学会)等

GCPプログラム
SEUでの終了式

プログラムホームページ: www.glue-apu.net



大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 立命館アジア太平洋大学

【構想の名称】(タイプB-I) APU-SEUグローバル協働教育プログラム-入学前教育から大学教養・専門教育まで

【プログラムの目的・養成する人材像】

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)と米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

APU・SEU生は各大学で受ける初年次教育をベースに、「積み上げ式協働教養プログラム」もしくは「協働ダブル・ディグリー・プログラム」に参加、それぞれの大学において留学を行う。APU学生は入学前留学プログラムも実施する。全てのプログラムにおいてラーニングゴールにもとづくアウトカム・アセスメントを実施し、学生の学びと成長に寄与する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組・プログラム実施状況・学生モビリティ

(1)入学前留学プログラム(3月実施)

APU入学予定者に対し、入学直前にSEUへ2週間の短期留学をするプログラム。SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業の受講、SEUの学生バディとの交流、フィールドトリップ等を通じ、国際的視点を意識した上で、入学後の学習計画を立てていくことを目的としている。H23～H27年度までの参加者は計97名(うち、H27年度は22名)。

(2)積み上げ式協働教養プログラム

**Business In Japan
プログラム - BIJ
(3月実施)**

国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶ約1週間のプログラム。APU教員による講義、日本企業・在日米国企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深める。H23～H27年度までの参加者は計90名(うち、H27年度は19名)。

**ゲートウェイ・プログラ
ム(6・7月実施)**

SEU学生がAPUにて2ヶ月間、日本語と日本文化を学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスと、APU・SEU両教員とAPU・SEU両学生がともに学ぶ協働開講科目、さらにフィールドトリップや農泊、学生バディとの交流を通じ、日本文化理解とコミュニケーション能力を培う。H24～H27年度までの参加者は計39名(うち、H27年度は15名)。

**グローバル・コミュニケ
ーション・プログラム -
GCP(6・7月実施)**

APU学生がSEUに2ヶ月滞在。SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修しながら英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、グローバル人材としてのコミュニケーション能力の獲得を目的としたプログラム。H24～H27年度までの参加者は計99名(うち、H27年度は28名)。H28年度も15名を派遣予定。

**Southeast Asian
Studies Program
- SEAS (8月実施)**

GCPでSEUに留学したAPU学生、ゲートウェイ・プログラムにてAPUに留学したSEU学生が、タイ・マレーシアにて2週間、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに協働学習を行うことにより、異文化理解力・コミュニケーション能力を更に深めることを目的としたプログラム。H24～H27年度までの参加者は計93名(うち、H27年度は28名)。

(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム

APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。H25年度よりAPUからSEUへの派遣を開始し、現在までに4名が参加。H28年8月からも2名を派遣予定。H27年9月よりSEU学生1名をAPUにて受け入れており、H28年9月からも1名を受入予定。

(4)キャップ・ストーン科目

上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。H24～H27年に、Southeast Asian Studies Programに統合する形で実施した。

上記の取組を通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

■ 留学を促進するための環境整備

事前・事後授業・留学アドバイジング・eポートフォリオ

参加プログラムに応じた事前・事後授業、個別アドバイジング、eポートフォリオの利用を通じ、学生の留学における目標の明確化、留学中の日々の達成度の検証、留学成果を将来の目標へ活かすための方向付けを丁寧に行っている。プログラムの枠を超えて先輩学生が後輩学生と交流できる場を設け、留学経験を共有し、将来への学びへ結びつけるためのモチベーション維持・向上を図る試みも行っている。H25年度より過年度プログラム参加学生がピア・アドバイザーとしてeポートフォリオ上でのフィードバックを行うことで、留学中もピア・サポートが継続されている。H27年度も同様の取組みおよび英語力向上のワークショップを企画、実施した。

■ 留学成果の研究とプログラムの波及効果

留学成果の研究: 本事業ではeポートフォリオの運用とデータ分析、さらにH24年度からルーブリックに基づく留学効果測定をSEUとともに実施し、結果は広く国内外に発信された。H26年度には「GLUEアウトカム」の指標を設定し、長期インパクト研究を開始。日米のグローバル協働教育の成果を指標化し、SEUと共同で分析を進めている。

プログラムの波及効果: 両大学の協働はプログラムを越え、学長から教職員まで積極的に両校で教育的意見交換をし、SEU教員による本学教職員へのSD/FDも実施している。今後は新規プログラム開発と、APU-SEU間での教職員交換プログラムなども検討。またeポートフォリオ、バディ研修、ピア・サポートシステム、入学前留学などは先駆事例として、学内外の海外プログラムにも波及している。本事業はオースティン市と大分市の姉妹都市交流に寄与するため、両市との連携も図っている。H28年5月にはSEU学長が大分市および本学を訪問し、今後の連携に関する協議を行った。

■ 成果の公開・普及

本プログラムの成果について国内外の研修会や国際会議等において発表。H28年1月には学外関係者を招き、最終成果報告会を実施した。

【学会・研究会発表】

- ・AAC&U, Global Learning学会
- ・NAFSA
- ・CIEE短期海外研修セミナー
- ・学生の海外体験学習と質保証研究大会
- ・朝日ネットmanabaセミナー ～他多数

【論文】

- ・「短期留学プログラムにおける意義のある学習」の実践(異文化間教育学会)等

交流実績数	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	49	65	68	66
学生の受入	16	40	28	35	48

(延べ人数)



GCPプログラム
SEUでの修了式